

V 科目履修の手引き

1. 授業科目の区分

| 科目の区分 | |
|--------|----------------|
| 基礎科目 | 主体的学修の基礎・導入 |
| | コミュニケーション能力の基礎 |
| | 人間と日常生活の理解 |
| | 社会生活の理解 |
| 専門基礎科目 | 健康の成り立ち |
| | 健康障害と治療 |
| | 臨床の人間学 |
| | 保健医療と社会保障 |
| 専門科目 | 基盤看護領域 |
| | 基礎看護学 |
| | 開発看護論 |
| | 地域生活支援看護領域 |
| | 地域在宅支援論 |
| | 老年看護学 |
| | 母性看護学 |
| | 小児看護学 |
| | 健康回復生活支援看護領域 |
| | 急性期・周術期看護論 |
| | 生活行動回復看護論 |
| | 慢性期・終末期看護論 |
| | 精神看護学 |
| 臨地実習 | |
| 研究科目 | 課題探求 |

上記の科目には必修科目（卒業するためには必ず履修し、単位を取得しなければならない科目）と選択科目（科目区分の中で自由に選択できる科目）があります。選択科目については、カリキュラムの「備考」欄を参照して下さい。

2. 学期および授業

1) 学期

本学は、1 学年を前期・後期に分ける前期・後期制を採用しています。授業は、開講学期によって次のように区分されます。

- ①前期科目：前期のみで授業を完結する科目
- ②後期科目：後期のみで授業を完結する科目
- ③通年科目：1 学年を通じて授業を行う科目

2) 授業

<方法>

- ①講義：教員が学生に対し、主に説明することで知識を授ける授業方法
- ②演習：講義で学んだ知識を基に、技術やワーク等を行う参加型・体験型学修
- ③実習：講義・演習による知識や技術を基に、臨地実習を通して看護の実際を学ぶ

<区分>

- ①通常授業：原則として毎週行われる授業
- ②集中授業：一定時期に集中的に連続して行われる授業

<時間>

本学の1回の授業時間は90分で、授業時間帯は次のとおりです。ただし、実習では次の時間帯とは異なります。

| | 1 時限 | 2 時限 | 3 時限 | 4 時限 | 5 時限 | 6 時限 |
|------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 開始時刻 | 9 : 00 | 10 : 40 | 13 : 00 | 14 : 40 | 16 : 20 | 18 : 00 |
| 終了時刻 | 10 : 30 | 12 : 10 | 14 : 30 | 16 : 10 | 17 : 50 | 19 : 30 |

3. 休講および補講

1) 休講

授業開講日は、「授業カレンダー」にしたがって行われますが、やむを得ない事情が発生した場合は休講になります。休講の場合は、教務揭示版（2号館入口右側）および大学ホームページで確認して下さい。

■気象警報の発令・公共交通機関の不通と授業および試験についての措置

暴風警報や特別警報等発令された場合、または公共交通機関が全面運行停止となった場合、授業については以下の措置をとります。

①「京都南部」又は「京都亀岡地域」に暴風警報が発令された場合

| | |
|---------------------|---------------------------------|
| 午前7時までに警報が解除された場合 | 平常通りの授業（講義・演習・実習）、試験を実施します。 |
| 午前10時までに警報が解除された場合 | 当日の午後から授業（講義・演習・実習）、試験を実施します。 |
| 午前10時までに警報が解除されない場合 | 当日の授業（講義・演習・実習）、試験すべてを臨時休業とします。 |

②「京都南部」又は「京都亀岡地域」に特別警報が発令された場合

| | |
|--|--|
| 居住地域に「特別警報」が1つでも発表された場合 | 直ちに命を守る行動をとって下さい（避難所へ避難するか、外出することが危険な場合は家の中で安全な場所にとどまる）。 |
| 登校時に「京都南部」、「京都亀岡」、居住地域のいずれかに「特別警報」が1つでも発表された場合 | 登校を見合わせて下さい。 「京都南部」、「京都亀岡」のいずれかに発表されている「特別警報」が午前7時までに解除されないときは、臨時休業となります。午前7時までに解除された場合は暴風警報発令時に準じます。 |

③交通機関が運休した場合

京都市市営交通（バス、地下鉄）、JR西日本、阪急京都線のすべての交通機関が運休（ストライキ、災害、事故など）した場合、授業（講義・演習・実習）、試験すべてを臨時休業とします。

| | |
|-----------------------|---------------------------------|
| 午前7時までに解除・開通の場合 | 平常通りの授業（講義・演習・実習）、試験を実施します。 |
| 午前10時までに解除・開通の場合 | 当日の午後から授業（講義・演習・実習）、試験を実施します。 |
| 午前10時までに交通機関が運行されない場合 | 当日の授業（講義・演習・実習）、試験すべてを臨時休業とします。 |

2) 補講

休講等の事情で予定通り授業が行われなかった場合は、原則として「補講」を行います。補講の時期、場所、方法などは掲示しますので、教務掲示板および大学ホームページに注意してください。

4. 単位制度

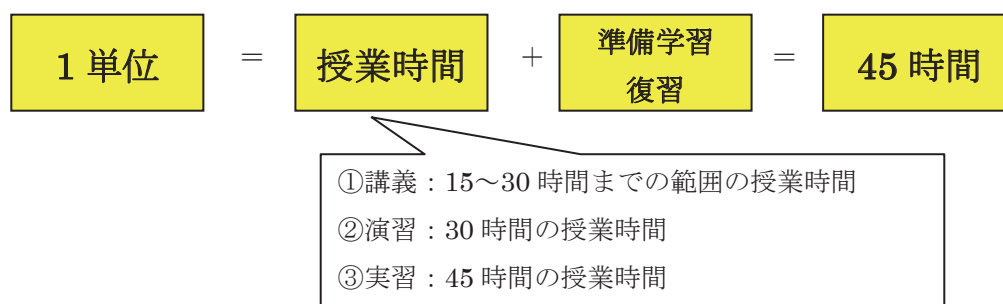
1) 単位制

大学での学修は、単位制となっています。単位制度とは、すべての授業科目に単位が定められており、各自履修登録した科目の授業を受講し、試験等を受け成績評価が合格となることによって、その授業科目の単位が修得（単位認定）できる制度です。

2) 単位の修得

国が定める基準の1単位は、「教室等での授業時間」と「準備学習や復習の時間」を合わせて「45時間の学修を必要とする内容」をもって構成することを標準としています。

授業に出席することはもちろんのこと、授業のための事前準備や事後の展開などの主体的な学びに要する時間を含め、十分な総学修時間を確保しましょう。



5. 授業の欠席、遅刻、早退および出席停止

1) 授業の欠席

履修する授業には、毎時間出席することが原則です。授業回数の3分の1を超えて欠席した場合には、原則としてその科目の定期試験受験資格を失います。また、定期試験以外の評価（小テスト、提出物、レポート、実技試験等）も無効となります。その場合、不合格となり再履修することになりますので注意して下さい。なお、ここでいう欠席数3分の1とは不可抗力（事故、病気、就職活動）による欠席の可能性を考慮してのことであり、3分の1欠席をしても良いということではありません。

なお、実習についてはP.43の2)が適用されます。

2) 授業の遅刻、早退

遅刻、早退の累積時間をもって、1回の欠席と取り扱うことがあります。

3) 出席停止

学校感染症（インフルエンザ等）に罹患した場合、速やかに学生支援課に電話で報告して下さい（P.24参照）。自身の療養と感染拡大防止のため、主治医より登校の許可がおりるまでは登校禁止とします。ただし、授業における学生の出席状況等から判断して、補講等の措置をとることがあります。また、出席停止期間後の登校にあたっては、登校許可証明書等を学生支援課に提出することが必要です。

6. 履修登録

履修登録とは、授業を受けるために、最初に行う手続きです。履修登録は、定められた期間および方法以外で行うことはできません。したがって、入学後のオリエンテーションには必ず出席し、講義概要および本書の内容をもれなく確認することが大切です。特に、選択科目については、取得単位や開講年次等、本書で確認してください。なお、履修登録を行わないと授業を受けることができません。

1) 登録の申請

学年当初に時間割を BookLooper にアップします。同時に、履修登録表を配布しますので、授業開始後 1 週間以内に履修したい科目の時間割コード及び科目名を黒いボールペンで書き込んで学生支援課教務担当（以下、「教務担当」）に提出してください。締切日 17 時以降の受け付けは行いません。

2) 登録の確認

履修登録が完了すると、履修登録確認表を発行しますので、事務室教務担当で受け取ってください。登録内容に不備がある場合は内容を確認し、教務担当に申し出てください。

履修登録確認表は大切に保管して下さい。

3) 登録の変更

初回の講義から 1 週間は履修登録の変更が可能です。

4) 履修できない科目

次に掲げる授業科目は履修できませんので注意してください。

- ①履修登録していない科目
- ②既に単位を修得した科目
- ③授業時間が重複する科目

5) 実習を履修するための前提科目

実習するにあたって、以下の前提科目の履修あるいは単位修得していることが必要条件となります（次ページ参照）。

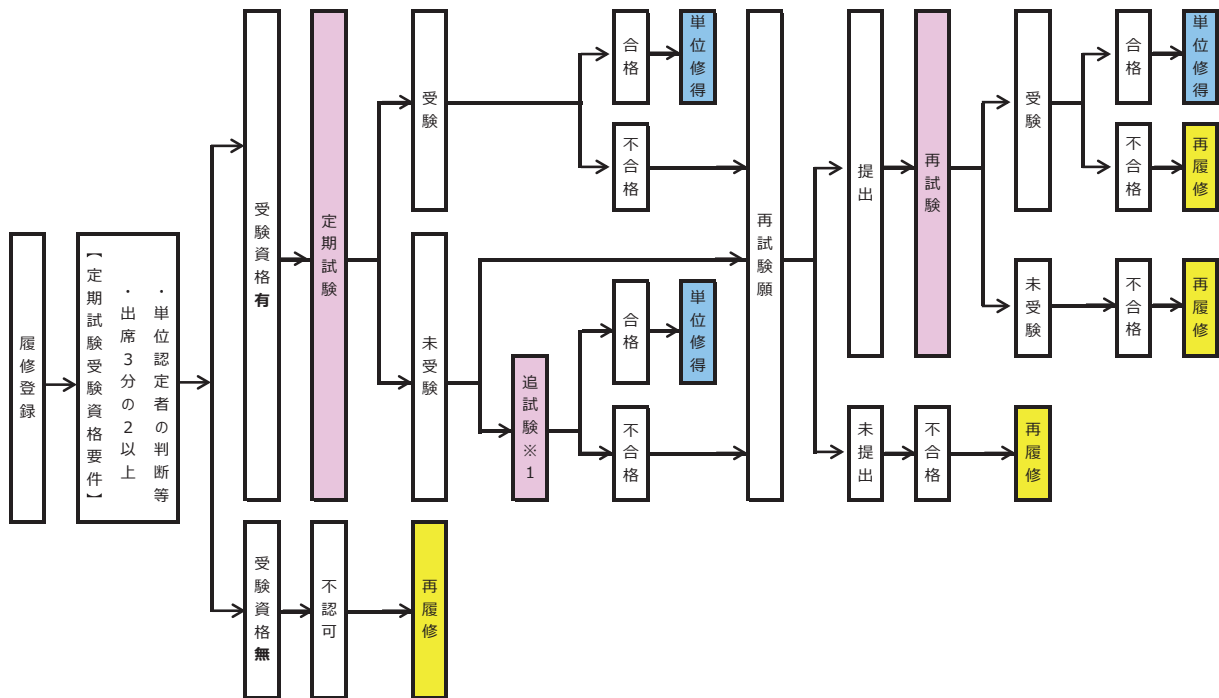
7. 各領域実習履修要件（必修科目単位取得について）

- 1) 1年次・2年次実習は、**履修中の必修科目** 以外の各年次実習の基盤となる必修科目単位を取得していないと履修できません。1年次前期に必修科目が修得できなかった場合は、2年次前期に履修しなければならず、2年次の「生活行動援助論実習Ⅱ」を履修することはできません。
- 2) 3年次の実習は、1年次・2年次のすべての実習および必修科目単位（下表以外も含む）を取得していないと履修できません。
（*なお、3年次必修科目の履修は、3年次実習を履修していることが必要条件となります。）
- 3) 4年次の実習は、1年次・2年次・3年次のすべての実習および必修科目単位を取得していないと履修できません。
（*なお、4年次の必修科目および選択科目は、1年次・2年次のすべての実習および必修科目単位を取得していないと履修できません。また、4年次の課題探求Ⅱの履修は、4年次の課題探求実習を履修していることが必要条件となります。）
- 4) 各領域実習の基盤となる必修科目一覧は下表の通りです。

| 年次 | 実習 | | 基盤となる科目 | | | | | |
|---------|--------------|----------|---|---------|-----------------------------|------|-----------------------------------|----------|
| | 科目名 | 開講時期 | 講義 | 開講時期 | 演習 | 開講時期 | 実習 | 開講時期 |
| 1 | 生活行動援助論実習Ⅰ | 1後 | 看護学原論 | 1前 | 生活行動援助論演習Ⅰ | 1後 | | |
| | | | 生活行動援助論Ⅰ | 1前 | | | | |
| 2 | 生活行動援助論実習Ⅱ | 2前 | 生活行動援助論Ⅱ | 1後 | 生活行動援助論演習Ⅰ | 1後 | 生活行動援助論実習Ⅰ | 1後 |
| | | | 看護過程論 | 2前 | ヘルス・フィジカルアセスメント | 1後 | | |
| | | | | | 生活行動援助論演習Ⅱ | 2前 | | |
| 3 | 在宅支援論実習 | 3通 | 在宅支援論 | 2前 | 在宅支援論演習 | 2後 | 生活行動援助論実習Ⅱ | 2前 |
| | 高齢者支援論実習 | 3通 | 高齢者支援論 | 2前 | 高齢者支援論演習 | 2後 | | |
| | 母性看護学実習 | 3通 | 母性看護学 | 2前 | 母性看護学演習 | 2後 | | |
| | 小児看護学実習 | 3通 | 小児看護学 | 2前 | 小児看護学演習 | 2後 | | |
| | 急性期・周術期看護論実習 | 3通 | 急性期・周術期看護論 | 2前 | 急性期・周術期看護論演習 | 2後 | | |
| | | | クリティカルケア論 | 2後 | | | | |
| | 生活行動回復看護論実習 | 3通 | 生活行動回復看護論 | 2前 | 生活行動回復看護論演習 | 2後 | | |
| | | | 健康回復生活支援概論 | 1後 | | | | |
| | セルフケア支援論実習 | 3通 | セルフケア支援論 | 2前 | セルフケア支援論演習 | 2後 | | |
| | 緩和ケア論実習 | 3後 | 緩和ケア論 | 2後 | | | | |
| 精神看護学実習 | 3通 | 精神看護学 | 2前 | 精神看護学演習 | 2後 | | | |
| 4 | 課題探求实習 | 4前 | 臨床実践と看護理論 看護管理・経営論 医療安全 災害看護論 国際看護論 | 4前 | ケアリングコミュニケーション 看護リフレクション | 3前 | 地域生活支援看護 健康回復生活支援看護 の領域実習全て | 3前 3後 |
| | 総合実習 | 4前 | | | | | | |
| | 国際看護論実習 | 4前 選択 | | | | | | |

8. 定期試験の受験資格要件とその流れ

定期試験を受けるためには、受験資格を保有する必要があります。原則3分の2以上の出席および単位認定者の判断により受験資格を保有した学生は、定期試験を受けることが可能になります。



※1) 追試験については、正当な追試験願出理由がある場合のみ実施

9. 試験

試験には、次の2種類があります。

■定期試験：学期末に期間を定めて行われる試験

■平常試験：授業の中で担当教員によって個別に随時行われる試験

上記の試験にはレポート試験も含まれます。

1) 定期試験の実施

定期試験は、各学期末に2週間の試験期間を設定しています。試験の時間割および教室は事前に教務掲示板に掲示しますので、注意してください。実施日時および実施教室の変更がある場合は、教務掲示板および大学ホームページに掲示します。

2) レポート試験について

①レポート試験とは

原則として、試験方法発表掲示において「レポート試験」として発表されたものにあたります。

②表紙について

この「レポート試験」については、大学所定の表紙をつけて事務室へ提出してください。

③レポート提出受理証について

「レポート試験」については、大学所定の受理証を合わせて提出してください。受理証は、その場で事務担当者が確認の割印を押し返却します。これはレポート提出の証明となるので大切に保管してください。

*大学所定の表紙及びレポート提出受理証は事務室前の引き出し、または大学ホームページにあるので、あらかじめ必要事項を記入して提出してください（鉛筆・シャープペンシル書きは不可）。

④締め切り期限の厳守

「レポート試験」は、担当教員の指示をしっかりと守り、真剣に取り組み、提出期限内に必ず提出してください。提出期限を越えたものは、下記の場合を除き、理由の如何にかかわらず一切受け付けません。受理締め切り時間は、締め切り期日の指定した時間までとします。

⑤事故による受傷・急病等により締め切り期限までに提出できない場合

事故による受傷・急病により、提出期限までに提出できない場合は、筆記試験の追試験に準ずる扱いとします。該当者は事務室に連絡し、追試験該当であると認められた場合は所定の追試験手続きを行い、レポート提出期限等の掲示を確認してください。

⑥再試験

「レポート試験」においても所定の得点に満たない場合には、再試験となります。該当者は筆記試験と同様に掲示されるので所定の再試験手続きを行ってください。

3) 試験期間中における暴風警報時等の対応について

原則として、試験期間中も暴風警報時等の措置（P.29、36）と同様です。ただし、試験前日までに当日の天候状況が想定できる場合は、各試験科目の担当教員が試験延期の判断を行う場合があるので、教務掲示板および大学ホームページに注意しておいて下さい。

4) 定期試験の受験上の心得

①定期試験の受験資格要件を確認して下さい。【P.41 参照】

②定期試験の時間割および試験会場については、各自で掲示を確認して下さい。

③定期試験受験上の注意

■定期試験を受験する学生は、特別な指示がない限り、試験開始の5分前に指定された教室に入ってください。

■受験中は必ず、学生証を机の上に置いて下さい。

■学生証を忘れた場合は、事務室教務担当で仮学生証の交付を受けて下さい。

■試験開始後20分以上を経過した場合は、入室は認められません。

■試験開始後30分が経過するまで退出はできません。

■座席は原則として、座席表のとおりに着席して下さい。

- 机の上に置けるものは、学生証、黒鉛筆・シャープペンシル、消しゴム、時計機能のみの時計（電子記録機能・計算機能・インターネット機能のないもの）です。スマートフォンの持ち込みは認めません。
- 携帯電話や音の出る機器の電源は必ず切り、カバンの中に入れて下さい。
- 点眼薬・喘息薬など常時携帯する薬品は、箱から出して机の上に置き、必要時は挙手をして下さい。
- ティッシュペーパーは中身を出して、机の上に置いて下さい。
- シャープペンシルの芯は、ペン本体に予備を入れておき、それでも足りない場合は、ケースから出して机の上に置き、ケースはしまってください。
- 解答用紙には学籍番号と氏名を明記して下さい。また指示があれば問題用紙にも学籍番号と氏名を明記して下さい。
- 試験会場では監督者の指示に従って下さい。
- 試験中の不正行為があると認められた場合は、学則第53条の規定により、懲戒処分の対象となります。また、今学期に実施する全ての試験が無効となります。

10. 成績評価および単位の認定

1) 成績評価

成績評価は、定期試験、平常試験、レポート、受講態度などを総合して、100点満点で採点します。成績評価の基準は次のとおりで、成績通知書、成績証明書の評価欄には、S・A・B・C・Fで記載します。

| 評点 | 評価 | 判定 |
|------------|----|-----|
| 90点以上～100点 | S | 合格 |
| 80点以上90点未満 | A | |
| 70点以上80点未満 | B | |
| 60点以上70点未満 | C | |
| 60点未満 | F | 不合格 |

そのほかに、点数で表現できない成績として「合格」「不合格」あるいは「認定」「不認定」で表示することがあります。

2) 看護学実習評価

事前学習内容・実習内容・実習態度・実習記録・出席状況などを総合的に評価します。

看護学実習の出席が、それぞれの授業科目に定められた実習期間の5分の4に満たない者は単位を認定されません。各看護学実習における遅刻・早退及び欠課は、9時間（45分を1時間と換算）をもって1日の欠席とみなします。

各看護学実習を欠席・遅刻・早退・欠課をする場合は、原則として事前にその理由を当該担当教員に届けなければなりません。

3) 単位の認定

成績の評価はS・A・B・C・Fの評語で表し、C以上を合格とし単位の修得を認めます。Fは不合格とし、単位の修得は認められません。

4) 成績通知

成績の通知については、前期科目分は後期開始前に、後期・通年科目分は翌年度の学期開始前に、年2回教務担当から本人及び保証人に対し親展扱いでそれぞれの住所宛に郵送します。

なお、前期の成績通知書には、前期に履修した科目（一部集中講義科目等を除く）の成績を記載しています。後期の成績通知書には、前期と後期を合わせた年間の成績を記載しています。また、成績通知書は紛失しても再交付は行いません。大切に保管し、各自の修得履修単位数の管理に役立ててください。

11. 追試験・再試験・追実習・特別実習

1) 試験について

①追試験・再試験該当者の掲示および受験願提出上の注意事項

追試験および再試験該当者の掲示は、各試験で確定しだい、ただちに大学掲示板およびホームページでお知らせしますので、各自確認して下さい。「追試験受験願」および「再試験受験願」の事務室への提出は、病気や事故等やむを得ない理由により本人が登校できない場合を除き、代理人による提出を認めません。もし本人が登校できない場合は、事務室にその理由を伝えて、代理人による提出の許可を得て下さい。

②追試験

病気その他やむを得ない理由により、定期試験等を受けることができない者には、事情により追試験を行うことがあります。追試験については「(追試験の点数) × 0.8」で評価されます。追試験の受験を希望する者は、「追試験受験願」に必要な証明書(P.45 参照)を添付して、原則として定期試験実施前に、事務室に提出して下さい。緊急の事情により事前に願い出ることができない場合は、当該試験開始時間までに電話等により事情を事務室に連絡して下さい。この場合は、事後提出であっても「追試験受験願」を受理することがありますが、提出期限は原則として当該試験日の3日後までとします。

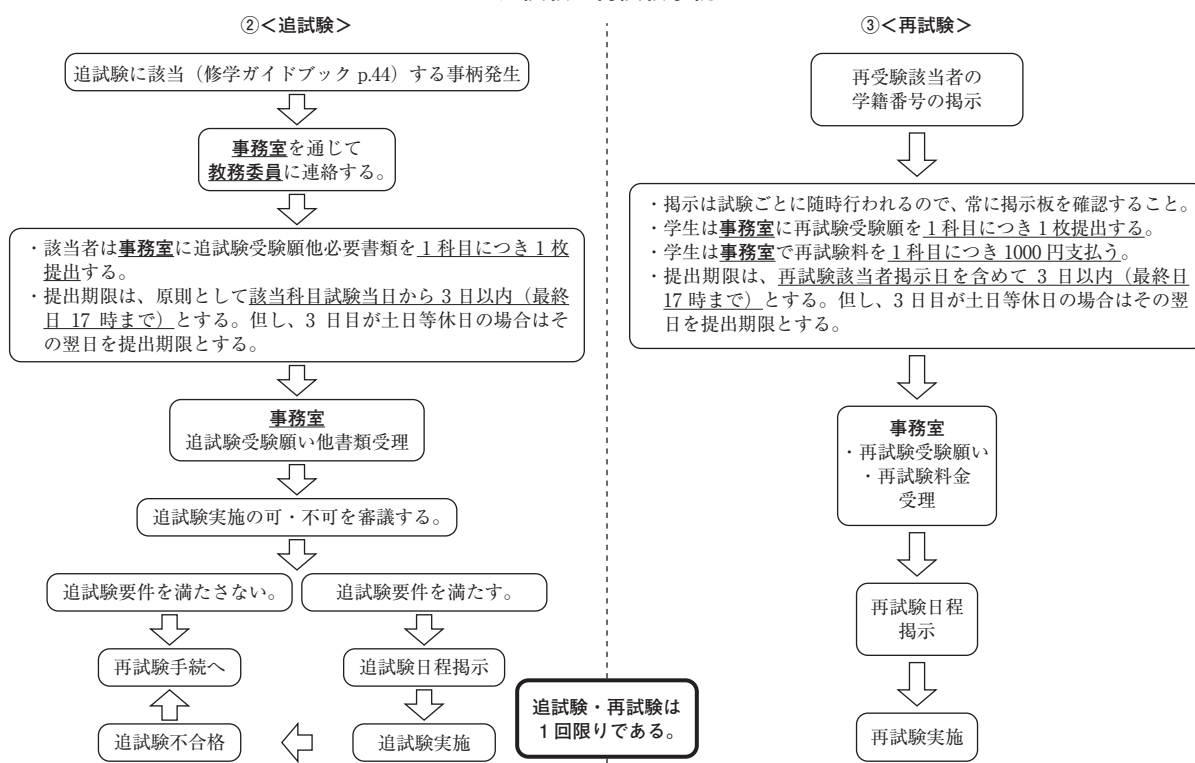
③再試験

定期試験等の結果が不合格となり、再試験を希望するものは、「再試験受験願」を指定された期日までに事務室に提出して下さい。

ただし特例として、本人が帰省等で遠隔地におり、期限までに書類等が提出できない場合には、ホームページで再試験該当者であることを確認した後、ただちに、事務室へ電話でその旨を伝え、郵送による提出許可を得て下さい。その場合、「再試験受験願（ホームページからダウンロードする）」および再試験料を事務室宛に速達現金書留郵便で郵送して下さい。なお郵便の消印が「再試験受験願」受理締切日の17時を過ぎたものは受理しません。

再試験は原則として1回までとし、評価としては「C」（60点）又は「F」（不合格）のいずれかとなります。再試験料は別途徴収します。

追試験・再試験手続



2) 実習について

① 追実習

履修資格を有しているが、病気及び学校保健安全法の適応上やむを得ない理由により「通常実習」ができなかった場合、その者に対し特に必要と認められた場合は「追実習」を行います。その際、「追実習願」を該当する実習担当の教員に提出した上で教務担当に提出して下さい。

② 特別実習

「通常実習」又は「追実習」において不合格等となった場合、その者に対し特に必要と認められた場合は「特別実習」を行います。その際、「特別実習願」を該当する実習担当の教員に提出した上で教務担当に提出して下さい。なお、「特別実習」再試験料は別途徴収します。

< 追試験・追実習の願出理由 >

| 追試験・追実習の願出理由 | 必要な書類 |
|---------------|-------------------|
| 病気・けが | 医師の診断書 |
| 災害 | 被災証明書 |
| 交通事故、交通機関の延着 | 事故証明書、延着証明書 |
| 3親等以内の葬儀 | 死亡に関する公的証明書 |
| その他大学が認める理由 | 理由書（本人以外の証明） |
| インフルエンザなどの感染症 | 医師の診断書あるいは登校許可証明書 |

12. カリキュラム

| 科目区分 | 授業科目の名称 | 配当年次 | | | | | | | | 単位数 | 授業形態 | | | 備考 |
|--------|-----------------|----------------|----|----|----|----|----|----|----|-----|------|----|--------------------|-------------------------|
| | | ●必修科目 ○選択科目 | | | | | | | | | 講義 | 演習 | 実習 | |
| | | 1前 | 1後 | 2前 | 2後 | 3前 | 3後 | 4前 | 4後 | | | | | |
| 基礎科目 | 主体的学修の基礎・導入 | 基礎ゼミ1 | ● | | | | | | | 1 | | ○ | | |
| | | 基礎ゼミ2 | | ● | | | | | | 1 | | ○ | | |
| | | クリティカルシンキング | | | ● | | | | | 1 | | ○ | | |
| | コミュニケーション能力の基礎 | 基礎英語コミュニケーション | ● | | | | | | | 1 | | ○ | | 選択科目の英語か中国語から2単位を取得すること |
| | | 中級英語コミュニケーション | | ● | | | | | | 1 | | ○ | | |
| | | 上級英語コミュニケーション1 | | | ○ | | | | | 1 | | ○ | | |
| | | 上級英語コミュニケーション2 | | | | ○ | | | | 1 | | ○ | | |
| | | 基礎中国語コミュニケーション | | | ○ | | | | | 1 | | ○ | | |
| | | 中級中国語コミュニケーション | | | | ○ | | | | 1 | | ○ | | |
| | | 医学・看護英語リーディング | | | | | | | ● | 1 | | ○ | | |
| | | 医学・看護英語語彙 | | | | | | | ● | 1 | | ○ | | |
| | | スポーツとコミュニケーション | ● | | | | | | | 1 | | ○ | | |
| | | 情報リテラシー | ● | | | | | | | 1 | | ○ | | |
| | 暮らしの中の統計処理 | | ● | | | | | | 1 | | ○ | | | |
| | 人間と日常生活の理解 | 哲学と倫理 | ○ | | | | | | | 2 | ○ | | | 選択科目から6単位以上を取得すること |
| | | 死生学 | | | | | | | ○ | 2 | ○ | | | |
| | | 芸術と感性 | | ○ | | | | | | 2 | ○ | | | |
| | | 人間関係の心理学 | ○ | | | | | | | 2 | ○ | | | |
| | | 生涯学習論 | | | | | | | ○ | 2 | ○ | | | |
| | 社会生活の理解 | 日常生活の科学 | ○ | | | | | | | 2 | ○ | | | 選択科目から6単位以上を取得すること |
| | | 法からみる医療 | | | | | | | ○ | 2 | ○ | | | |
| | | 経済からみる医療 | | | | | | | ○ | 2 | ○ | | | |
| | | 現代社会のしくみ | ○ | | | | | | | 2 | ○ | | | |
| | | 家族とジェンダー | | | | | | | ○ | 2 | ○ | | | |
| | | 京都の文化と暮らし | | ○ | | | | | | 2 | ○ | | | |
| 専門基礎科目 | 健康の成り立ち | 健康論 | ● | | | | | | 1 | ○ | | | | |
| | | 生命の科学 | ● | | | | | | 1 | ○ | | | | |
| | | 微生物学 | ● | | | | | | 1 | ○ | | | | |
| | | 形態機能学Ⅰ(解剖生理学) | ● | | | | | | 1 | ○ | | | | |
| | | 形態機能学Ⅱ(解剖生理学) | | ● | | | | | 1 | ○ | | | | |
| | | 形態機能学Ⅲ(生化学) | | ● | | | | | 1 | ○ | | | | |
| | | 栄養学 | | | ● | | | | 1 | ○ | | | | |
| | 健康障害と治療 | 病理学概論 | | ● | | | | | 1 | ○ | | | | |
| | | 疾病と治療Ⅰ | | ● | | | | | 2 | ○ | | | | |
| | | 疾病と治療Ⅱ | | | ● | | | | 2 | ○ | | | | |
| | | 疾病と治療Ⅲ | | | | ● | | | 2 | ○ | | | | |
| | | 薬理学 | | ● | | | | | 1 | ○ | | | | |
| | 代替療法と癒し | | | | | | | ○ | 1 | | ○ | | | |
| | 臨床の人間学 | 生涯発達論 | | ● | | | | | 1 | ○ | | | 選択科目から1単位以上を取得すること | |
| | | 医療・看護倫理 | | ● | | | | | 1 | ○ | | | | |
| | | 臨床人間学 | | ○ | | | | | 1 | ○ | | | | |
| | | 臨床心理学 | | ○ | | | | | 1 | ○ | | | | |
| | | 医療コミュニケーション論 | | | ● | | | | 1 | ○ | | | | |
| | 医療コミュニケーション論演習 | | | | ● | | | 1 | | ○ | | | | |
| | 保健医療と社会保障 | 看護政策論 | | | | | | | ● | 1 | ○ | | 選択科目から1単位以上を取得すること | |
| | | 公衆衛生学 | | | ● | | | | 1 | ○ | | | | |
| | | 保健統計学 | | | | | | | ○ | 1 | ○ | | | |
| | | 関係法規 | | | | | | | ● | 1 | ○ | | | |
| | | 社会福祉 | ● | | | | | | | 1 | ○ | | | |
| | 社会資源コーディネーター論 | | | | | | | ○ | 1 | ○ | | | | |
| 基礎看護学 | 看護学原論 | ● | | | | | | 1 | ○ | | | | | |
| | 臨床実践と看護理論 | | | | | | | ● | 1 | ○ | | | | |
| | 生活行動援助論Ⅰ | ● | | | | | | 1 | ○ | | | | | |
| | 生活行動援助論演習Ⅰ | | ● | | | | | 2 | | ○ | | | | |
| | 生活行動援助論Ⅱ | | ● | | | | | 1 | ○ | | | | | |
| | 生活行動援助論演習Ⅱ | | | ● | | | | 2 | | ○ | | | | |
| | 看護現象と看護診断 | | | | ● | | | 1 | ○ | | | | | |
| | 看護過程論 | | | ● | | | | 1 | ○ | | | | | |
| | ヘルス・フィジカルアセスメント | | ● | | | | | 1 | | ○ | | | | |
| | ゲーミングコミュニケーション | | | | | ● | | 1 | | ○ | | | | |
| 開発看護論 | 看護教育論 | | | | | | | ○ | 1 | ○ | | | | |
| | 看護リフレクション | | | | | ● | | 1 | | ○ | | | | |
| | 看護管理・経営論 | | | | | | | ● | 1 | ○ | | | | |
| | 看護キャリア開発論 | | | | | | | ● | 1 | ○ | | | | |
| | 医療安全 | | | | | | | ● | 1 | ○ | | | | |
| | 災害看護論 | | | | | | | ● | 1 | ○ | | | | |
| | 災害看護技術演習 | | | | | | | ○ | 1 | | ○ | | | |
| | 国際看護論 | | | | | | | ● | 1 | ○ | | | | |
| | 看護技術強化演習 | | | | | | | ● | 1 | | ○ | | | |



| 科目 区分 | 授業科目の名称 | 配当年次 | | | | | | | | 単 位 数 | 授業形態 | | | 備考 | | |
|-------------|--------------|----------------|--------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------------|--------|--------|--------|----|--|--|
| | | ●必修科目 ○選択科目 | | | | | | | | | 講 義 | 演 習 | 実 習 | | | |
| | | 1 前 | 1 後 | 2 前 | 2 後 | 3 前 | 3 後 | 4 前 | 4 後 | | | | | | | |
| 専門 科目 | 地域生活支援看護領域 | 在宅支援論 | | | ● | | | | | 2 | ○ | | | | | |
| | | 在宅支援論演習 | | | | ● | | | | 2 | | ○ | | | | |
| | | 家族支援論 | | | | ○ | | | | 1 | ○ | | | | | |
| | | 公衆衛生看護学 | | | | ● | | | | 1 | ○ | | | | | |
| | 老年看護学 | 高齢者支援論 | | | ● | | | | | 2 | ○ | | | | | |
| | | 高齢者支援論演習 | | | | ● | | | | 2 | | ○ | | | | |
| | 母性看護学 | 母性看護学 | | | ● | | | | | 2 | ○ | | | | | |
| | | 母性看護学演習 | | | | ● | | | | 2 | | ○ | | | | |
| | 小児看護学 | 小児看護学 | | | ● | | | | | 2 | ○ | | | | | |
| | | 小児看護学演習 | | | | ● | | | | 2 | | ○ | | | | |
| | 健康回復生活支援看護領域 | 急性期・周術期看護論 | 急性期・周術期看護論 | | | ● | | | | | 1 | ○ | | | | |
| | | | クリティカルケア論 | | | | ● | | | | 1 | ○ | | | | |
| | | | 急性期・周術期看護論演習 | | | | ● | | | | 1 | | ○ | | | |
| | | 生活行動回復看護論 | 健康回復生活支援概論 | | ● | | | | | | | 1 | ○ | | | |
| | | | 生活行動回復看護論 | | | ● | | | | | | 1 | ○ | | | |
| | | | 生活行動回復看護論演習 | | | | ● | | | | | 1 | | ○ | | |
| | 慢性期・終末期看護論 | セルフケア支援論 | | | ● | | | | | | 1 | ○ | | | | |
| | | セルフケア支援論演習 | | | | ● | | | | | 1 | | ○ | | | |
| | 精神看護学 | 緩和ケア論 | | | | ● | | | | | 1 | ○ | | | | |
| | | 精神看護学 | | | ● | | | | | | 2 | ○ | | | | |
| | 臨地実習 | 精神看護学演習 | | | | ● | | | | | 2 | | ○ | | | |
| | | 生活行動援助論実習Ⅰ | | ● | | | | | | | 1 | | | ○ | | |
| | | 生活行動援助論実習Ⅱ | | | ● | | | | | | 2 | | | ○ | | |
| | | 在宅支援論実習 | | | | | ● | ● | | | 2 | | | ○ | | |
| | | 高齢者支援論実習 | | | | | ● | ● | | | 3 | | | ○ | | |
| | | 母性看護学実習 | | | | | ● | ● | | | 2 | | | ○ | | |
| | | 小児看護学実習 | | | | | ● | ● | | | 2 | | | ○ | | |
| | | 急性期・周術期看護論実習 | | | | | ● | ● | | | 2 | | | ○ | | |
| 生活行動回復看護論実習 | | | | | | ● | ● | | | 2 | | | ○ | | | |
| セルフケア支援論実習 | | | | | | ● | ● | | | 2 | | | ○ | | | |
| 緩和ケア論実習 | | | | | | ● | ● | | | 1 | | | ○ | | | |
| 精神看護学実習 | | | | | | ● | ● | | | 2 | | | ○ | | | |
| 課題探求实習 | | | | | | | | | ● | | 1 | | | ○ | | |
| 総合実習 | | | | | | | | | ● | | 1 | | | ○ | | |
| 国際看護論実習 | | | | | | | | | ○ | | 1 | | | ○ | | |
| 研究科目 | 課題探求 | 課題探求Ⅰ | | | | | | | ● | | 1 | ○ | | | | |
| | | 課題探求Ⅱ | | | | | | | ● | ● | 2 | | ○ | | | |

13. 資格取得

本学看護学部看護学科では、卒業と同時に看護師国家試験受験資格が取得できます。国家試験に合格すると看護師の資格を取得できます。

| 学部学科名 | 取得資格名 |
|----------|-------------|
| 看護学部看護学科 | 看護師国家試験受験資格 |

14. 卒業要件

卒業要件は以下の通りとなります。

看護学部に4年以上在籍し、以下の127単位以上を取得することとします（学則第24条）。

| 区 分 | 取得単位数 | 内 訳 |
|--------|--------|---------------------|
| 基礎科目 | 24 単位 | 必修 10 単位、 選択 14 単位 |
| 専門基礎科目 | 26 単位 | 必修 23 単位、 選択 3 単位 |
| 専門科目 | 74 単位 | 必修 72 単位、 選択 2 単位 |
| 講義・演習 | 51 単位 | 必修 49 単位、 選択 2 単位 |
| 実習 | 23 単位 | 必修 23 単位 |
| 研究科目 | 3 単位 | 必修 3 単位 |
| 合 計 | 127 単位 | 必修 108 単位、 選択 19 単位 |

15. 他大学等で修得した単位の認定

本学では、以下の方法で修得した単位について、その単位を本学で修得したものとして認定する制度があります。この制度を希望する学生は、本学所定の既修得単位認定申請書、当該修得科目の詳細な講義概要（シラバス）、および当該修得科目の成績証明書等を提出する必要があります。単位認定の可否は、教務委員会等で講義概要等を詳細に審議し、場合によっては本人に講義内容を確認したうえで決定されます。

本学開講科目の内容はすべて、看護・医療を学ぶうえで必要なものに精選されています。そのため、提出した科目名称が本学開講科目と同じ、または類似するものであっても、その内容は大きく異なることがあり、その場合には既修得単位として認定できません。

詳しくは、事務室教務担当に相談してください。

- ①本学の定めた他大学または短期大学において修得した単位
- ②外国の大学または短期大学に留学し修得した単位、及び外国の大学または短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し修得した単位
- ③短期大学または高等専門学校の特攻科において行う学修およびその他文部科学大臣が別に定める学修において修得した単位
- ④本学に入学する以前に大学または短期大学において修得した単位（科目等履修により修得した単位を含む）
- ⑤なお、外国の大学または短期大学に留学の予定があり、留学先の修得単位を本学単位として認定希望する学生は、事前に事務室教務担当に申し出て下さい。別途、相談に応じます。
- ⑥さらに、本学は大学コンソーシアム京都の単位互換事業に加盟しています。

【単位互換制度参加大学一覧】

京都大学、京都教育大学、京都工芸繊維大学、京都府立大学、京都府立医科大学、京都市立芸術大学、池坊短期大学、大谷大学、大谷大学短期大学部、華頂短期大学、京都外国語大学、京都外国語短期大学、京都学園大学、京都経済短期大学、京都光華女子大学、京都光華女子大学短期大学部、京都嵯峨芸術大学、京都嵯峨芸術大学短期大学部、京都産業大学、京都女子大学、京都精華大学、京都西山短期大学、京都造形芸術大学、京都橘大学、京都ノートルダム女子大学、京都文教大学、京都文教短期大学、京都薬科大学、種智院大学、昭和女子大学、成安造形大学、成美大学短期大学部、京都聖母女学院短期大学、同志社大学、同志社女子大学、花園大学、佛教大学、平安女学院大学、平安女学院大学短期大学部、明治国際医療大学、立命館大学、龍谷大学、龍谷大学短期大学部、大阪医科大学、京都華頂大学、京都美術工芸大学、福知山公立大学

⑦認定審査は、全学年次一括で行うため、入学後14日以内に申請してください。それ以降の申請は認められないので、ご注意ください。

16. その他

1) 科目担当教員について

各科目を担当する教員はホームページ上のシラバスにあるとおりです。なお、他大学等からの出講となる講師については、1号館1階に講師控室がありますが、在室は当該授業日の出講時限前後のみとなりますので注意して下さい。

2) 授業評価アンケートの実施について

授業評価アンケートは、授業内容やカリキュラムの改善などに取り組むため、授業に対する学生のみなさんの意見をアンケートにより聞くものです。授業評価アンケートは、原則として、全ての授業科目について実施します。頂いた意見は今後役に立てていきたいのでみなさんの真摯な御協力をお願いします。

実施にあたっては、担当教員からの指示に従って下さい。

3) オフィスアワーについて

オフィスアワーは、授業内容や学習の進め方などについて、学生からの相談を受ける時間を各教員が指定し、学生を支援する制度です。学生のみなさんの積極的な活用を期待します。

VI 編入学生の履修

1. 編入学生定員の設定と読み替え認定

1) 編入学生定員 10 名 (3 年次編入：平成 28 年度より受入)

2) 編入学資格

①短期大学（看護師養成課程）を卒業した者及び卒業見込みの者

②専修学校の専門課程（看護師養成課程）のうち、文部科学大臣の定める基準（修業年限 2 年以上で、総授業時間数 1,700 時間以上）を満たす課程を卒業（修了）した者及び卒業（修了）見込みの者で学校教育法第 90 条第 1 項に規定する大学入学資格を有する者。

3) 読み替え認定

基礎科目、専門基礎科目、専門科目の読替認定は、教務委員会にて審議し認定します。

基礎科目、専門基礎科目、専門科目、各相互間の単位読替は可とします。

2. 3 年課程編入学生の科目認定単位数と必修科目およびカリキュラム

科目認定については、編入学生（看護師有資格者、若しくは看護師国家試験受験資格を有する者）は、既に看護学について一定の知識・技術を修得しているとみなし、併せて下記の内容を勘案しつつ「基礎科目」「専門基礎科目」「専門科目」「研究科目」におけるすべての科目について個別認定をおこないます。科目認定単位数は最大 69 単位の中でおこないます。

(1) 「基礎科目」

必修科目として 12 科目 17 単位を履修します。

(2) 「専門基礎科目」

必修科目として 12 科目 12 単位を履修します。

(3) 「専門科目」

必修科目として 17 科目 17 単位を履修します。

(4) 「研究科目」

「課題探求Ⅰ」「課題探求Ⅱ」の 2 科目 3 単位を必修科目とします。

以上より、3 年課程の編入学生は 3 年次、4 年次を通して 43 科目 49 単位の必修科目を学修します。



| 科目区分 | 授業科目の名称 | 単位数 | | 授業形態 | | | 備考 | |
|-----------|----------------|----------------|----|------|----|----|------------------------|---|
| | | 必修 | 選択 | 講義 | 演習 | 実習 | | |
| 基礎科目 | 主体的学修の基礎・導入 | 基礎ゼミ1 | 1 | | | ○ | 基礎科目の中から必修科目17単位取得すること | |
| | | 基礎ゼミ2 | 1 | | | ○ | | |
| | | クリティカルシンキング | 1 | | | | | ○ |
| | コミュニケーション能力の基礎 | 基礎英語コミュニケーション | | 1 | | | | ○ |
| | | 中級英語コミュニケーション | | 1 | | | | ○ |
| | | 上級英語コミュニケーション1 | | 1 | | | | ○ |
| | | 上級英語コミュニケーション2 | | 1 | | | | ○ |
| | | 基礎中国語コミュニケーション | | 1 | | | | ○ |
| | | 中級中国語コミュニケーション | | 1 | | | | ○ |
| | | 医学・看護英語リーディング | 1 | | | | | ○ |
| | | 医学・看護英語語彙 | 1 | | | | | ○ |
| | | スポーツとコミュニケーション | | 1 | | | | ○ |
| | 人間と日常生活の理解 | 情報リテラシー | 1 | | | | | ○ |
| | | 暮らしの中の統計処理 | 1 | | | | | ○ |
| | | 哲学と倫理 | 2 | | | | | ○ |
| | | 死生学 | 2 | | | | | ○ |
| | | 芸術と感性 | | 2 | | | | ○ |
| | | 人間関係の心理学 | 2 | | | | | ○ |
| | 社会生活の理解 | 生涯学習論 | 2 | | | | | ○ |
| | | 日常生活の科学 | | 2 | | | | ○ |
| | | 法からみる医療 | | 2 | | | | ○ |
| 経済からみる医療 | | | 2 | | | ○ | | |
| 現代社会のしくみ | | | 2 | | | ○ | | |
| 家族とジェンダー | | | 2 | | | ○ | | |
| 健康の成り立ち | 京都の文化と暮らし | | 2 | | | ○ | | |
| | 異文化コミュニケーション論 | 2 | | | | ○ | | |
| | 健康論 | 1 | | | | ○ | | |
| | 生命の科学 | 1 | | | | ○ | | |
| | 微生物学 | | 1 | | | ○ | | |
| | 形態機能学Ⅰ(解剖生理学) | | 1 | | | ○ | | |
| | 形態機能学Ⅱ(解剖生理学) | | 1 | | | ○ | | |
| | 形態機能学Ⅲ(生化学) | | 1 | | | ○ | | |
| | 栄養学 | | 1 | | | ○ | | |
| | 健康障害と治療 | 栄養学 | | 1 | | | ○ | |
| 病理学概論 | | | 1 | | | ○ | | |
| 疾病と治療Ⅰ | | | 2 | | | ○ | | |
| 疾病と治療Ⅱ | | | 2 | | | ○ | | |
| 疾病と治療Ⅲ | | | 2 | | | ○ | | |
| 薬理学 | | | 1 | | | ○ | | |
| 臨床の人間学 | 代替療法と癒し | | 1 | | | ○ | | |
| | 生涯発達論 | 1 | | | | ○ | | |
| | 医療・看護倫理 | 1 | | | | ○ | | |
| | 臨床人間学 | 1 | | | | ○ | | |
| | 臨床心理学 | 1 | | | | ○ | | |
| | 医療コミュニケーション論 | 1 | | | | ○ | | |
| 保健医療と社会保障 | 医療コミュニケーション論演習 | 1 | | | | ○ | | |
| | 看護政策論 | 1 | | | | ○ | | |
| | 公衆衛生学 | | 1 | | | ○ | | |
| | 保健統計学 | 1 | | | | ○ | | |
| | 関係法規 | 1 | | | | ○ | | |
| | 社会福祉 | | 1 | | | ○ | | |
| | 社会資源コーディネート論 | 1 | | | | ○ | | |

| 科目区分 | | 授業科目の名称 | 単位数 | | 授業形態 | | | 備考 |
|-------------|----------------|--------------|-----------------|----|------|----|-----------------------|--------------------------------|
| | | | 必修 | 選択 | 講義 | 演習 | 実習 | |
| 専門科目 | 基盤看護領域 | 基礎看護学 | 看護学原論 | 1 | | ○ | | 専門科目の中から 必修科目17単位 取得すること |
| | | | 臨床実践と看護理論 | 1 | | | ○ | |
| | | | 生活行動援助論Ⅰ | | 1 | ○ | | |
| | | | 生活行動援助論演習Ⅰ | | 2 | | ○ | |
| | | | 生活行動援助論Ⅱ | | 1 | ○ | | |
| | | | 生活行動援助論演習Ⅱ | | 2 | | ○ | |
| | | | 看護現象と看護診断 | 1 | | ○ | | |
| | | | 看護過程論 | | 1 | ○ | | |
| | | | ヘルス・フィジカルアセスメント | | 1 | | ○ | |
| | ケアリングコミュニケーション | 1 | | | ○ | 集中 | | |
| | 基盤看護領域 | 開発看護論 | 看護教育論 | 1 | | ○ | | 集中 |
| | | | 看護リフレクション | 1 | | | ○ | 集中 |
| | | | 看護管理・経営論 | 1 | | ○ | | オムニバス |
| | | | 看護キャリア開発論 | 1 | | ○ | | |
| | | | 医療安全 | 1 | | ○ | | |
| | | | 災害看護論 | 1 | | ○ | | オムニバス |
| | | | 災害看護技術演習 | 1 | | | ○ | |
| | | | 国際看護論 | 1 | | ○ | | オムニバス |
| | | | 看護技術強化演習 | | 1 | | ○ | 集中 |
| | 地域生活支援看護領域 | 地域在宅支援論 | 在宅支援論 | | 2 | ○ | | |
| | | | 在宅支援論演習 | | 2 | | ○ | |
| | | | 家族支援論 | 1 | | ○ | | オムニバス |
| | | 老年看護学 | 公衆衛生看護学 | | 1 | ○ | | |
| | | | 高齢者支援論 | | 2 | ○ | | |
| | | | 高齢者支援論演習 | | 2 | | ○ | |
| | 母性看護学 | 母性看護学 | | 2 | ○ | | | |
| | | 母性看護学演習 | | 2 | | ○ | | |
| | 小児看護学 | 小児看護学 | | 2 | ○ | | | |
| | | 小児看護学演習 | | 2 | | ○ | | |
| | 健康回復生活支援看護領域 | 急性期・周術期看護論 | 在宅支援論 | | 1 | ○ | | |
| | | | クリティカルケア論 | | 1 | ○ | | |
| | | | 急性期・周術期看護論演習 | | 1 | | ○ | |
| | | 生活行動回復看護論 | 健康回復生活支援概論 | 1 | | ○ | | 集中・オムニバス |
| 生活行動回復看護論 | | | | 1 | ○ | | | |
| 生活行動回復看護論演習 | | | | 1 | | ○ | | |
| 慢性期・終末期看護論 | | セルフケア支援論 | | 1 | ○ | | オムニバス | |
| | | セルフケア支援論演習 | | 1 | | ○ | | |
| 精神看護学 | | 緩和ケア論 | 1 | | ○ | | オムニバス | |
| | | 精神看護学 | | 2 | ○ | | | |
| 精神看護学演習 | | 2 | | ○ | 共同 | | | |
| 臨地実習 | | 生活行動援助論実習Ⅰ | | 1 | | ○ | | |
| | | 生活行動援助論実習Ⅱ | | 2 | | ○ | | |
| | | 在宅支援論実習 | | 2 | | ○ | | |
| | | 高齢者支援論実習 | | 3 | | ○ | | |
| | | 母性看護学実習 | | 2 | | ○ | | |
| | | 小児看護学実習 | | 2 | | ○ | | |
| | | 急性期・周術期看護論実習 | | 2 | | ○ | | |
| | | 生活行動回復看護論実習 | | 2 | | ○ | | |
| | | セルフケア支援論実習 | | 2 | | ○ | | |
| | | 緩和ケア論実習 | | 1 | | ○ | | |
| | | 精神看護学実習 | | 2 | | ○ | | |
| | | 課題探求实習 | 1 | | | ○ | | |
| | | 総合実習 | 1 | | | ○ | | |
| | | 国際看護論実習 | | 1 | | ○ | | |
| 研究科目 | 課題探求 | 課題探求Ⅰ | 1 | | ○ | | オムニバス | |
| | | 課題探求Ⅱ | 2 | | | ○ | 研究科目の中から必修科目3単位取得すること | |

3. 2年課程編入学生の科目認定単位数と必修科目およびカリキュラム

科目認定については、編入学生（看護師有資格者、若しくは看護師国家試験有資格者）は、既に看護学について一定の知識・技術を修得しているとみなし、併せて下記の内容を勘案しつつ「基礎科目」「専門基礎科目」「専門科目」「研究科目」におけるすべての科目について個別認定をおこないます。科目認定単位数は最大59単位の中でおこないます。

(1) 「基礎科目」

必修科目として16科目24単位を履修します。

(2) 「専門基礎科目」

必修科目として14科目14単位を履修します。

(3) 「専門科目」

必修科目として18科目18単位を履修します。

(4) 「研究科目」

「課題探求Ⅰ」「課題探求Ⅱ」の2科目3単位を必修科目とします。

以上より、2年課程の編入学生は3年次、4年次を通して50科目59単位の必修科目を学修します。

| 科目 区分 | 授業科目の名称 | 単位数 | | 授業形態 | | | 備考 | |
|---------------|--------------------|----------------|--------|--------|--------|--------|--------------------------------|---|
| | | 必 修 | 選 択 | 講 義 | 演 習 | 実 習 | | |
| 基礎 科目 | 主体的学修の 基礎・導入 | 基礎ゼミ1 | 1 | | | ○ | 基礎科目の中から 必修科目24単位取得 すること | |
| | | 基礎ゼミ2 | 1 | | | ○ | | |
| | | クリティカルシンキング | 1 | | | | | ○ |
| | コミュニケーショ ン能力の基礎 | 基礎英語コミュニケーション | 1 | | | | | ○ |
| | | 中級英語コミュニケーション | | 1 | | | | ○ |
| | | 上級英語コミュニケーション1 | | 1 | | | | ○ |
| | | 上級英語コミュニケーション2 | | 1 | | | | ○ |
| | | 基礎中国語コミュニケーション | | 1 | | | | ○ |
| | | 中級中国語コミュニケーション | | 1 | | | | ○ |
| | | 医学・看護英語リーディング | 1 | | | | | ○ |
| | | 医学・看護英語語彙 | 1 | | | | | ○ |
| | | スポーツとコミュニケーション | | 1 | | | | ○ |
| | 人間と日常生 活の理解 | 情報リテラシー | 1 | | | | | ○ |
| | | 暮らしの中の統計処理 | 1 | | | | | ○ |
| | | 哲学と倫理 | 2 | | | | | ○ |
| | | 死生学 | 2 | | | | | ○ |
| | | 芸術と感性 | 2 | | | | | ○ |
| | | 人間関係の心理学 | 2 | | | | | ○ |
| | 社会生活の 理解 | 生涯学習論 | 2 | | | | | ○ |
| | | 日常生活の科学 | | 2 | | | | ○ |
| | | 法からみる医療 | 2 | | | | | ○ |
| | | 経済からみる医療 | | 2 | | | | ○ |
| | | 現代社会のしくみ | | 2 | | | | ○ |
| | | 家族とジェンダー | | 2 | | | | ○ |
| 健康の 成り立ち | 京都の文化と暮らし | 2 | | | | ○ | | |
| | 異文化コミュニケーション論 | 2 | | | | ○ | | |
| | 健康論 | 1 | | | | ○ | | |
| | 生命の科学 | 1 | | | | ○ | | |
| | 微生物学 | | 1 | | | ○ | | |
| | 形態機能学Ⅰ(解剖生理学) | | 1 | | | ○ | | |
| | 形態機能学Ⅱ(解剖生理学) | | 1 | | | ○ | | |
| | 形態機能学Ⅲ(生化学) | | 1 | | | ○ | | |
| 健康障害と 治療 | 栄養学 | 1 | | | | ○ | | |
| | 病理学概論 | 1 | | | | ○ | | |
| | 疾病と治療Ⅰ | | 2 | | | ○ | | |
| | 疾病と治療Ⅱ | | 2 | | | ○ | | |
| | 疾病と治療Ⅲ | | 2 | | | ○ | | |
| | 薬理学 | | 1 | | | ○ | | |
| 臨床の 人間学 | 代替療法と癒し | | 1 | | | ○ | | |
| | 生涯発達論 | 1 | | | | ○ | | |
| | 医療・看護倫理 | 1 | | | | ○ | | |
| | 臨床人間学 | 1 | | | | ○ | | |
| | 臨床心理学 | 1 | | | | ○ | | |
| | 医療コミュニケーション論 | 1 | | | | ○ | | |
| 保健医療と 社会保障 | 医療コミュニケーション論演習 | 1 | | | | ○ | | |
| | 看護政策論 | 1 | | | | ○ | | |
| | 公衆衛生学 | | 1 | | | ○ | | |
| | 保健統計学 | 1 | | | | ○ | | |
| | 関係法規 | 1 | | | | ○ | | |
| | 社会福祉 | | 1 | | | ○ | | |
| 社会資源コーディネート論 | 1 | | | | ○ | | | |



| 科目区分 | | 授業科目の名称 | 単位数 | | 授業形態 | | | 備考 | |
|--------------|------------|-----------------|-----|----|------|----|-------|--------------------------------|-------|
| | | | 必修 | 選択 | 講義 | 演習 | 実習 | | |
| 基盤看護領域 | 基礎看護学 | 看護学原論 | 1 | | ○ | | | 専門科目の中から 必修科目18単位 取得すること | |
| | | 臨床実践と看護理論 | 1 | | | ○ | | | |
| | | 生活行動援助論Ⅰ | | 1 | ○ | | | | |
| | | 生活行動援助論演習Ⅰ | | 2 | | ○ | | | |
| | | 生活行動援助論Ⅱ | | 1 | ○ | | | | |
| | | 生活行動援助論演習Ⅱ | | 2 | | ○ | | | |
| | | 看護現象と看護診断 | 1 | | ○ | | | | |
| | | 看護過程論 | 1 | | ○ | | | | |
| | | ヘルス・フィジカルアセスメント | | 1 | | ○ | | | |
| | | ケアリングコミュニケーション | 1 | | | ○ | | | 集中 |
| 基盤看護領域 | 開発看護論 | 看護教育論 | 1 | | ○ | | | 集中 オムニバス | |
| | | 看護リフレクション | 1 | | | ○ | | | |
| | | 看護管理・経営論 | 1 | | ○ | | | | |
| | | 看護キャリア開発論 | 1 | | ○ | | | | |
| | | 医療安全 | 1 | | ○ | | | | |
| | | 災害看護論 | 1 | | ○ | | | | オムニバス |
| | | 災害看護技術演習 | 1 | | | ○ | | | |
| | | 国際看護論 | 1 | | ○ | | | | オムニバス |
| 看護技術強化演習 | | 1 | | ○ | | 集中 | | | |
| 地域生活支援看護領域 | 地域在宅支援論 | 在宅支援論 | | 2 | ○ | | | オムニバス | |
| | | 在宅支援論演習 | | 2 | | ○ | | | |
| | | 家族支援論 | 1 | | ○ | | | | |
| | | 公衆衛生看護学 | | 1 | ○ | | | | |
| | 老年看護学 | 高齢者支援論 | | 2 | ○ | | | | |
| | | 高齢者支援論演習 | | 2 | | ○ | | | |
| | 母性看護学 | 母性看護学 | | 2 | ○ | | | | |
| | | 母性看護学演習 | | 2 | | ○ | | | |
| | 小児看護学 | 小児看護学 | | 2 | ○ | | | | |
| | | 小児看護学演習 | | 2 | | ○ | | | |
| 健康回復生活支援看護領域 | 急性期・周術期看護論 | 急性期・周術期看護論 | | 1 | ○ | | | 集中・オムニバス | |
| | | クリティカルケア論 | | 1 | ○ | | | | |
| | | 急性期・周術期看護論演習 | | 1 | | ○ | | | |
| | 生活行動回復看護論 | 健康回復生活支援概論 | 1 | | ○ | | | | |
| | | 生活行動回復看護論 | | 1 | ○ | | | | |
| | | 生活行動回復看護論演習 | | 1 | | ○ | | | |
| | 慢性期・終末期看護論 | セルフケア支援論 | | 1 | ○ | | | | オムニバス |
| | | セルフケア支援論演習 | | 1 | | ○ | | | |
| | 緩和ケア論 | 1 | | ○ | | | オムニバス | | |
| | 精神看護学 | 精神看護学 | | 2 | ○ | | | | 共同 |
| 精神看護学演習 | | | 2 | | ○ | | | | |
| 臨地実習 | | 生活行動援助論実習Ⅰ | | 1 | | | ○ | | |
| | | 生活行動援助論実習Ⅱ | | 2 | | | ○ | | |
| | | 在宅支援論実習 | | 2 | | | ○ | | |
| | | 高齢者支援論実習 | | 3 | | | ○ | | |
| | | 母性看護学実習 | | 2 | | | ○ | | |
| | | 小児看護学実習 | | 2 | | | ○ | | |
| | | 急性期・周術期看護論実習 | | 2 | | | ○ | | |
| | | 生活行動回復看護論実習 | | 2 | | | ○ | | |
| | | セルフケア支援論実習 | | 2 | | | ○ | | |
| | | 緩和ケア論実習 | | 1 | | | ○ | | |
| | | 精神看護学実習 | | 2 | | | ○ | | |
| | | 課題探求实習 | 1 | | | | ○ | | |
| | | 総合実習 | 1 | | | | ○ | | |
| 国際看護論実習 | | 1 | | | ○ | | | | |
| 研究科目 | 課題探求 | 課題探求Ⅰ | 1 | | ○ | | | オムニバス | |
| | | 課題探求Ⅱ | 2 | | | ○ | | 研究科目の中から必修 科目3単位取得すること | |

Ⅶ 科目等履修生・聴講生の履修

1. 科目等履修生

本学の学生以外の者でも本学において開設する授業科目の履修を希望する者があるときは、本学の教育に支障がない場合に限り、履修を許可することがあります。

科目等履修生として履修した科目には、試験のうえ、単位を認定することができます。ただし、科目等履修生としての期間は在学年数と算出しません。

科目等履修生選考料及び科目履修料は、以下のとおりとします。一旦納付した選考料および履修料は、これを返還しません。

| 区分 | 金額 |
|-----|----------------|
| 選考料 | 1科目につき 20,000円 |
| 履修料 | 1単位につき 10,000円 |

単位互換履修生の授業料等は、その学生の在学する大学または短期大学との協議に基づき定めるものとします。

2. 聴講生

本学の学生以外の者で本学において開設する授業科目の聴講を希望する者があるときは、本学の教育に支障がない場合に限り、聴講を許可することがあります。

聴講生に関する規定は別に定めます。

聴講生として履修した科目については、単位の認定は行ないません。

聴講生選考料及び聴講料は以下のとおりとします。一旦納付した選考料および聴講料は、これを返還しません。

| 区分 | 金額 |
|-----|----------------|
| 選考料 | 1科目につき 10,000円 |
| 聴講料 | 1科目につき 20,000円 |